

第9回 国際サゴヤシシンポジウム，ポスター発表を終えて

Report of Session 2 Poster presentation in 9th International Sago Symposium

橋谷 真由美

千葉大学園芸学部生物生産科学科 〒271-8510 千葉県松戸市松戸648

2007年7月19日～21日の3日間、フィリピンのレイテ島で第9回国際サゴヤシシンポジウムが開催された。初日と2日目の午後まで口頭発表が行なわれ、2日目の口頭発表の後、ホテルのプールが見下ろせるバルコニーで浜風に吹かれながらポスター発表が行われた。

今回のポスター発表は5件あり、サゴの葉における病原性真菌の試験管内の形態学的研究 (University of the Philippines in Mindanao, Reynaldo G. Abad and Lidda N. Cunado), フィリピンAgusan del Surにおけるサゴヤシに群がるヤシゾウムシに関する研究 (University of the Philippines in Mindanao, Reynaldo G. Abadら), 養鶏飼料におけるトウモロコシの代替品としてのサゴでんぷんの研究 (Aklan State University, Danilo E. Abayon and Elsa I. Abayon), 村規模でのサゴの格子状栽培の機械に関する研究 (Visayas State University, Alan B. Loretoら) 等のポスター発表があり、多彩な分野からサゴヤシについてアプローチしていた。

今回、私はサゴヤシの生息地の一つとして挙げられるマレーシア、サラワク州における泥炭土壌中の温室効果ガス (特にメタン, 二酸化炭素, 亜酸化窒素) の発生について発表した。泥炭土においては、口頭発表でもこれからの農地拡大の可能性やサゴヤシ栽培において適切な地下水位の研究発表などがあった。参考になるデータが多く、また泥炭土について研究している方からのアドバイスは実験に生かせるもので、それに他分野の方々からの質問はとても興味深いもので自分の実験に対して新たな着眼点が発見できた。

国際サゴヤシ学会に参加して、基礎研究はも

とより現地につながる研究が多いと感じた。また、分野の幅が広いとため、人類学、工学、食品学、植物栄養学、土壌学など様々な分野で研究をしている人々が集まり、研究分野を超えての意見交換などが盛んで、いろいろな研究についてのお話を聞くことができ、様々なアプローチの方法や考え方にも触れ、とても良い経験をさせていただきました。



図 ポスター発表の様子